

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1991. 10

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 89

日本野鳥の会 埼玉県支部

鐘撞堂山 (寄居町)

田口浩司 (浦和市)

寄居駅北口から北へ約3kmに位置する鐘撞堂山は、高さ330.2m、南西に秩父連山、南側には西から東に流れる荒川を望み、山頂付近は松や杉、雑木林に囲まれて、野鳥のほかに、さまざまな野草や昆虫を楽しむことができます。

春から夏

桜の花が咲く季節になると、周辺の林にはサシバたちが南から渡って来ます。林道をのんびりと歩いていると、ピクィーとサシバたちの鳴く声を耳にすることが出来るでしょう。更に山道へと進むと、シジュウカラやコゲラなどの可愛らしい姿を見つけることが出来ます。この地で越冬したベニマシコの、鮮やかな夏羽を見られるチャンスも……。

新緑の5月になるとキビタキ、オオルリ、センダイムシクイといった夏を代表する小鳥たちが美声を楽しませてくれます。キビタキやオオルリたちは、山中に点在する松の枯れ枝でさえづっています。早朝、露に濡れる山

道を登れば、美しい姿を見ることが出来るでしょう。

6月を過ぎると、夏の小鳥たちも高地に移り少々寂しくなりますが、代わって、オオタカ、ノスリ、サシバなど、ホークウォッチングが楽しめます。じっくりとタカたちの勇姿を見たい人には、鐘撞堂山の山頂がお勧めです。うれしいことに、裾野を飛び交う姿を見下ろすことが出来ます。

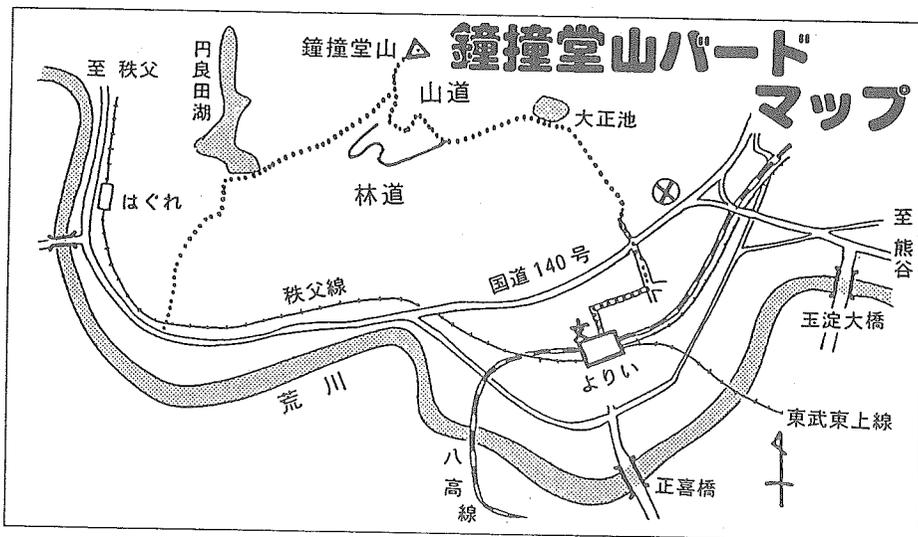
秋から冬

9月も中旬になると、渡りの鳥たちでにわかには活気づきます。タカの渡りのピーク時には、サシバをはじめ、ハイタカ、ツミなども見られ、時にはハチクマに出会うこともあり

表 私のフィールドノートから

鳥種名	春	夏	秋	冬
1 カイツブリ	○	○	○	○
2 ゴイサギ	○	○	○	○
3 コサギ	○	○	○	○
4 トビ	○		○	○
5 オオタカ	○	○	○	○
6 ハイタカ			○	○
7 ノスリ	○	○	○	○
8 サシバ	○	○	○	
9 コジュケイ	○	○	○	○
10 キジ	○	○	○	○
11 キジバト	○	○	○	○
12 ホトトギス		○		
13 アマツバメ			○	
14 アオゲラ	○	○	○	○
15 アカゲラ	○	○	○	○
16 コゲラ	○	○	○	○
17 イワツバメ			○	
18 キセキレイ	○	○	○	○
19 ハクセキレイ			○	○
20 セグロセキレイ	○	○	○	○
21 ヒヨドリ	○	○	○	○
22 モズ			○	○
23 ミソサザイ				○
24 カヤクグリ				○
25 ルリビタキ				○
26 ジョウビタキ				○
27 ツグミ				○

鳥種名	春	夏	秋	冬
28 ヤブサメ		○		
29 ウグイス	○	○		
30 センダイムシクイ		○		
31 キビタキ		○		
32 エゾビタキ			○	
33 エナガ	○		○	○
34 ヒバリ	○	○		
35 ヒガラ				○
36 ヤマガラ	○		○	○
37 シジュウカラ	○	○	○	○
38 メジロ	○	○	○	○
39 ホオジロ	○	○	○	○
40 カシラダカ				○
41 ミヤマホオジロ				○
42 アオジ	○			○
43 アトリ				○
44 カワラヒワ	○	○	○	○
45 ウソ				○
46 イカル	○			○
47 シメ				○
48 スズメ	○	○	○	○
49 ムクドリ	○	○	○	○
50 カケス	○		○	○
51 オナガ	○		○	○
52 ハシボソガラス	○	○	○	○
53 ハシブトガラス	○	○	○	○
種類数	32	29	34	43



ます。この時期には7種類ものタカが確認されており、識別の勉強にもなります。頂上付近を低く飛ぶもの、気流に乗り円を描くもの、羽を縮めて猛スピードで飛ぶものなど、飛翔百態を楽しむことも出来ます。

小鳥たちも大物に負けずにぎわいを見せてくれます。サメビタキやメジロは山桜の枝を飛び渡り、ヒヨドリの群れはタカの目を逃れる様に林から林に渡っていきます。

渡りの季節も終わり木枯らしの吹くころになると、山の主役は赤い鳥や青い鳥に移っていきます。

山道に入らずに、分岐点をそのまま左の方、林道を歩くと、遠くからウソの声が聞こえてきます。稜線を丹念に探して見ましょう。恥ずかしげに頬を染めた姿に会えるはず。林の陰ではルリビタキの鮮やかな青が見られ、そっと立ち止まっていれば、かなり近くまで寄って来ます。

林道を行き止まりまで登るとエサ場が設置してあり、カヤクグリ、ミヤマホオジロ、アオジ、ベニマシコ、ルリビタキ、ヤマガラなど、多くの小鳥たちが集まってきます。小鳥たちの性格や力関係などを観察していると、林の中からアオゲラやアカゲラの声が聞こえてきます。

雪が降ると、エサ場はまた一段とにぎやか

さを増します。マヒワの群れやカラ類の混群がとぎれなく現れます。ミヤマホオジロなどのホオジロ類は、エサ台をすっかり占領してしまします。ルリビタキ、ジョウビタキは、エサをねだりに私たちのまわりを飛び回り、クリツとした目で見つめてきます。

寒い中で熱いコーヒーを飲みながら鳥たちと一体になるのも、また感動的なものです。

冬の鐘撞堂山はとても寒く、服装はかなり厚手のものを用意することをお勧めします。山頂付近は北風が強く吹きつけるため、小鳥たちは南側の斜面に集まっています。山道を登るより、林道を歩く方が思わぬ出会いが期待出来るでしょう。

■■■■■■■■■■ 四季を通じて ■■■■■■■■■■

周辺には自然がかなり残っており、春から夏にかけてはヤブミョウガ、ヤマツツジなどの野草や、オニヤンマ、アゲハなどの昆虫類も、皆さんを迎えてくれることでしょう。

秋には、風布地区、折原地区へ足を伸ばせば、ミカン、ブドウなどの果樹園が開かれていますので、季節の味を楽しむことも出来ます。

四季を通じてさまざまな形で自然を楽しむことが出来る場所です。ぜひお出かけください。

プリメリーのスイス紀行～夢の街グリンデルワルト

松井昭子（大宮市）

スイス建国7百年の今年、私達山なかまの10年越しの夢が実現した。夏の初め、「スイスアルプスハイキング」へと心を躍らせながら、チューリッヒ空港からひた走るバスの中に私達は居た。絵葉書そのままの風景が車窓を通り過ぎて行く。目的地グリンデルワルトはまた、期待以上に素晴らしかった。ホテルのベランダからの眺めはもう、夢の国？おとぎの国？そう、まさに異次元の世界。見渡す限り緑の広がる中に点在する家々はみな、素朴な佇まいで自然とじっくり調和している。その上にどんと聳えるアイガーと白い峰々。言葉もなく見とれていて、絵の中に鳥が飛びこんで来た。2羽、3羽、黒い羽根が美しく、カラスよりは小柄でクチバシは黄、足は赤と見て、あとで調べた名はキバシガラス。それにしてもカラスまでが清らかな点景になるという有様に、早くも夢見心地である。

翌日はスイス晴れ、登山電車でユングフラウヨッホへ向かう。車内ではガイドの加藤氏が山の名を差し示す度に、右に傾き左を振り向きと忙しいがとても覚えられない。しかし、遙か山上には息を呑むような大景観が待ち受けていた。アイガー、メンヒ、ユングフラウ等の名峰が間近に、新雪を浴びて輝いていたのである。この信じられないような大自然と青空に包まれ、私達はひとしきり雪と遊んだ。ビニール袋をソリ代わりにして滑るシリセートで雪まみれになって楽しんだ後、再び登山電車に乗り、途中駅のアイガーグレッチャー



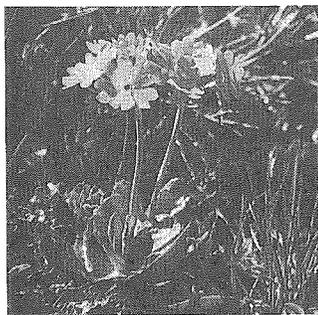
こちらにもプリメリーの花

からいよいよハイキングとなる。ランチタイムは素晴らしい展望をおかずにしてパンも果物も美味 100%。午後は歩くこと約1時間半で夕方ホテルに到着した。この夜、夕日に映えるアイガーを狙って撮影の瞬間を待っていたが、いつまでも明るいのは参った。そろそろ眠くなる頃、アイガーはやっと赤味を帯びてきた。ああ白夜はくれない（紅）？

次の日、ポストバスで「パホーパホー」とのどかな警笛と共に登ってきた私達、今日は緑の中のハイキングで、植物たちとの出会いの日。高山の花の可憐さは日本と変わらず、どの花にも似通った日本名を思い出しつつ歩く。アルプスの女王、アルペンローズやエーデルワイズにもめぐり会い、天気は常に上々の幸運に恵まれた私達は、ここで加藤氏からグループ名まで頂戴した。その名は「プリメリー」桜草のようなピンクの愛らしい花で、その後私達の呼称も「7人組」から「プリメリーの皆さん」に昇格した。花の山旅のあとは空中散歩、ヨーロッパ長いチェアーリフトでグリンデルワルトへと一気に下る30分。風船旅行気分が歌の一節がふっと浮かんできた。

何だか夢の中に居るような気持
ほんとにほんとなのかな
何もかも忘れて
いつまで居てもいいのかな……

明日は魅力的なマッターホルンの待つツェルマットへの移動日。グリンデルワルトにももう「さよなら」しなければならない。



プリメリーの花（富澤泰恵）

北秋津カブトムシ便り

水本玲子 (所沢市)

只今夏休みの真最中。小3の息子は、この夏、クワガタとカブトムシ採りに熱中しています。いつも歩き回っている雑木林には鳥も虫もいっぱいいますので、虫の好きな樹液の出ている木を求めて、晩か早朝(付き添いの親も喜び勇んで)虫採りに出かけるのです。虫採りにも根気と忍耐が必要です。1匹も採れない日もありますし、真暗で、蚊がいっぱいて、お化けも出そうな林の中に踏み込んで行かなければなりませんから。こうしてつかまえたクワガタとカブトムシが、大きな虫かごに4つ、40匹ほどいますので、息子は朝夕餌をやって、大切に育てています。

子供時代を過ごす自然環境は、親の愛情と同じ位大事なものだと思います。

私は8月4日に、念願のカワセミを見ることができました。場所は京都市郊外にある実家の近くのため池です。子供の頃に良く遊んだところですが、荒れ放題で、カワセミを見た記憶はありません。住民が増えたために池を整備し、フェンスで囲ったことで緑が濃くなり、カワセミが住める様になったのです。

子供たちの大切な遊び場である巾着田が、いろいろな生き物にとっても住み良い環境が保たれることを願うこの頃です。

僕の細道

美里町 しげる

(五月雨)

さみだれを 集めても おそい入間川

(静かさや)

しずかさや 雨で鳴かない コノハズク

(無残やな)

むざんやな 乱開発の ゴルフ場

(荒海や)

荒海や 支部に呼びたい アホウドリ

(古池や)

ふるいけや カワセミ飛び込む 水の音

バション (芭蕉)

カイツブリの子育て

石井純子 (川口市)

5月12日、浦和市秋ヶ瀬ピクニックの森の沼でカイツブリの子育てを観察しました。

半分埋立てられている沼の中ほどに2羽のカイツブリを見つけ、1羽はよく潜っては餌とりをするのに、他の1羽は全く潜らないので、望遠鏡で見ていると、なんと母親の背中にシマ模様の美しい3羽の幼鳥がもぐりこんでいるではありませんか。父親が潜っては餌をとり「クエー」というような高い声を出すと、母親の背中にいる幼鳥がゆっくりと泳いで父親から口うつして餌をもらい、また母親の背中にもぐりこむ、その繰返しでした。父親は餌とりががんばり、母親は常に3m位の距離を保ち、3羽を背負うような感じている姿は何とも微笑ましい姿でした。

そのうち父親はスーと母親に近づき3羽の幼鳥のうち1羽が父親の背中に乗り移りカイツブリの家族は葦のしげっている中へ仲よく泳いで行きました。



毎日うるさいモズのモツチけん
(押川歳子)



野鳥情報

ゴイサギ ◇8月18日午後3時30分、坂戸市西坂戸の調整池で成鳥3羽、幼鳥5羽(増尾 隆・節子)。

ササゴイ ◇8月10日、本庄市の阪東大橋下流で1羽。この辺りでは、今年に入って初めて見る(井上幹男)。

アマサギ ◇7月30日、本庄市の阪東大橋下流草地で夏羽1羽、冬羽2羽(井上幹男)。
◇8月9日、戸田市道満貯水池で冬羽2羽。12日には、夏羽も1羽見られた。(高橋達也)。

ダイサギ ◇8月24日午後5時頃、坂戸市入西の林で集団ねぐらを発見。翌25日、日の出前に確認に行く。午後5時頃、コサギ、チュウサギ、アマサギ、ゴイサギを含めて約600羽(増尾 隆・節子)。

ミサゴ ◇7月12日、深谷市の上武大橋上流で1羽。コアジサシのコロニー上空でモビングされながら上流へ飛んで行く(井上幹男)。

オオタカ ◇8月30日、深谷市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。

ツミ ◇9月1日午後7時10分、上尾市の大宮ゴルフコースで幼鳥1羽。オナガの群れに突っ込んだが失敗。羽ばたきと滑翔を交互にして飛ぶ姿はなかなか精悍であり、スマートである(立岩恒久)。

サシバ ◇8月15日、浦和市秋ヶ瀬のピック

ニックの森で幼鳥2羽。鳴きながら森の上を旋回する(福井 亘)。

チョウゲンボウ ◇7月9日、深谷市の上武大橋下流で2羽。ホバリングしながら、上流へ飛んで行く(井上幹男)。

オオバン ◇8月16日、所沢市久米の松ヶ丘遊水池で1羽(佐藤方博)。

オンドリ ◇8月17日、本庄市の阪東大橋下流でカルガモ、カイツブリの中にエクリプス羽の♂1羽(井上幹男)。

タマシギ ◇8月18日、越谷市北川崎の休耕田で♂♀各1羽。8月27日、♂1羽、そばにヒナ1羽(山部直喜)。

ムナグロ ◇7月27日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(井上幹雄)。
◇8月19日、戸田市道満貯水池の干潟で6羽(高橋達也)。

◇8月25日、狭山市の間川、広瀬橋上流で2羽。2羽とも胸に夏羽のなごりの黒斑が見られた(三田長久)。
◇8月30日、深谷市の上武大橋下流で数羽(井上幹男)。

トウネン ◇8月30日、本庄市の阪東大橋下流で4羽(井上幹男)。

ヒバリシギ ◇7月27日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。
8月19日、戸田市道満貯水池の干潟で1羽(高橋達也)。

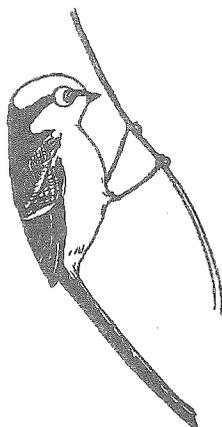
コアオアシシギ ◇8月30日、深谷市の上武大橋下流で1羽。アオアシシギ2羽の中に飛んで来たが上流へ飛び去る。この後、上流の中洲でエサをとる姿を見る(井上幹男)。
◇9月1日午前7時50分、坂戸市入西の湿地で1羽(増尾 隆・節子)。

アオアシシギ ◇7月27日、本庄市の阪東大橋下流で5羽(井上幹男)。
◇9月3日、越谷市北川崎で1羽(海老原美夫)。

クサシギ ◇7月30日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(井上幹男)。
◇8月30日、深谷市の上武大橋下流で2羽(井上幹男)。

タカブシギ ◇7月23日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(井上幹男)。

キアシシギ ◇7月23日、本庄市の阪東大橋下流で9羽(井上幹男)。
◇8月9日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽(高橋達也)。
◇8月30日、深谷市の上武大橋下流で数羽(井上幹男)。



★ **エナガ**

こゝをエナガだと
思っているのは、橋の上
本人だけじゃなく……

(黒田佳子)

ソリハシシギ ◇8月19日、戸田市道満貯水池で2羽（高橋達也）。

タシギ ◇9月3日、越谷市北川崎で4羽（海老原美夫）。

オオジシギ ◇7月27日、本庄市の阪東大橋下流で1羽（井上幹男）。◇8月19日、越谷市北川崎で3羽（海老原美夫）。

セイタカシギ ◇8月31日、羽生市上新郷の休耕田で1羽（漆原正浩）。

ツバメチドリ ◇8月31日、羽生市上新郷の休耕田で3羽（漆原正浩）。

ユリカモメ ◇8月17日午後7時15分頃、深谷市の上武大橋下流で夏羽2羽。下流へ飛んで行く（井上幹男）。

アジサシ ◇7月16日、本庄市の阪東大橋下流で3羽。コアジサシとともに中洲で休む（井上幹男）。

キジバト（営巣） ◇8月24日、桶川市若宮の自宅裏のコブシの木に盛んに巣材を運んでいる。1羽は巣の中で抱卵中か（立岩恒久）。

カッコウ ◇8月15日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽（福井 亘）。◇8月30日、深谷市の上武大橋下流で、オオヨシキリの仮親からエサをもらうカッコウの幼鳥を初めて見る。感激！（井上幹男）。

カワセミ ◇7月18日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽。子供の森でも1羽（福井 亘）。◇8月12日、坂戸市西坂戸の西坂戸団地内を流れる小川で1羽。上流より飛んできて、私に気づき裏の林に消えた（黒沢正明）。

ショウドウツバメ ◇8月10日、本庄市の阪東大橋下流で約100羽（井上幹男）。

ヒヨドリ ◇9月1日午後6時20分、桶川市



（厚沢清美）

若宮の自宅前のケヤキの枝にヒナが2羽。「チュウ……」と鳴きながら親鳥からエサをもらう（立岩恒久）。

メジロ ◇8月15日、与野市鈴谷の浦和所沢線のケヤキ並木で1羽（福井 亘）。

ウグイス ◇7月18日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森でさえずる（福井 亘）。◇8月8日午前6時30分、上尾市の大宮ゴルフコースの森で3回さえずる。今時は珍しい（立岩恒久）。

オオヨシキリ ◇8月15日、浦和市秋ヶ瀬の荒川河川敷でボロボロの羽の個体が1羽（福井 亘）。

コムクドリ ◇8月10日、深谷市の上武大橋下流で2羽（井上幹男）。

ギンバラ ◇7月20日、狭山市の入間川、広瀬橋上流で1羽。草の穂先にとまって実を食べていた（三田長久）。

ヘキチョウ ◇7月20日、狭山市の入間川、広瀬橋上流で2羽。ギンバラと一緒に行動していた（三田長久）。

表紙の写真

1990 ネイチャーフォトコンテスト入選作

シラコバト（ハト科）

『しらこばと』の表紙でシラコバトを見たことがありますか。見た人は、支部設立以来の会員ということになります。

創刊・1984年5月6月合併号の表紙が、故田村照治顧問（当時副支部長）のシラコバト

のイラストでした。それ以後、なぜか1度も登場していません。

1990年入選作からの表紙写真最後の1枚がこのシラコバト。次回からは1991年新入選作が登場します。（海老原美夫・浦和市）

行事あんない



北川辺町・渡良瀬遊水池探鳥会

期日：10月6日（日）

集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前

交通：JR東北線大宮8：12→栗橋8：41、
東武日光線乗換え8：55→柳生9：05

担当：中島康夫、松井昭吾、吉原俊雄、五十嵐浩、入山博

見どころ：迫力満点のワシタカ・ウォッチング、ミサゴをはじめ、チュウヒ、ノスリなど。そして、ゆったり気分の水鳥ウォッチング。これだけ豊かな自然があれば、遊園地やスポーツ施設なんかなくっても、充分楽しめるのにね。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：10月10日（木・祝）

集合：午前9時 東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越8：33発急行→坂戸で
越生線乗り換え8：49→川角8：58

担当：石井幸男、長谷部謙二、佐久間博文
解散：午後2時頃

見どころ：ヤマセミ&カワセミなら、やっばり、ここ！ 前は、雨の中集まった熱心な参加者の前に、ヤマセミ登場。さて、柳の下にドジョウは2匹いないけれど、崖の下のヤマセミは？

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月13日（日）

集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前

担当：諏訪隆久、岡安征也、林滋、菱沼一充、

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日です。参加費は一般100円、会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、午後1時ごろになります。

- ◇フィールドマナー、いつも忘れないで◇
- ・鳥に近づきすぎたり、植物を採ったり荒らしたりしないように。細く長いおつきあいを。
 - ・ゴミは、家まで持ち帰りましょう。

関口善孝、神沼幸三郎、塚本典子

見どころ：君のひとみに乾杯！草むらに見えかくれするノビタキ。その、つぶらな瞳は、何を見つめているのかな。大麻生を通り過ぎてゆく旅鳥たち、ほかにもいろいろ、見られそう。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：10月20日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）または午前9時浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、笠原伸子、田口浩司

見どころ：渡ってきたカモ達。コガモ、オナガガモなど、芝川で見られるカモは、種類も数も増えて来ました。土手に上がって、川を見渡すあの瞬間が、ますます楽しみな季節です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月26日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局

野鳥写真クラブ定例会

とき：10月26日（土）午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

期日：10月26日（土）～27日（日）

集合：26日午前5時20分JR長野駅改札口前

交通：26日午前0時26分大宮発急行「妙高」
に乗車。または長野駅周辺で前泊を。
費用：10,000円の予定（一泊3食、バス代、
参加費、保険料等）他に往復の交通費。
定員：40名（先着順、ただし県支部会員優先）
申し込み：往復葉書に住所、氏名、電話番号、
性別を明記の上、北川真一（〒362

担当：北川、草間和子

見どころ：渡り鳥、赤い鳥。のんびりと紅葉
を愛で、落葉のじゅうたんを踏み、晩
秋の山の自然に浸りましょう。宿では、
名物・手打ちそばと地酒が、あなたを
待っています。

川越市・西川越探鳥会

期日：10月27日（日）
集合：午前9時 JR川越線西川越駅前
担当：長谷部謙二、乗田実、石井幸男、三田
長久、佐久間博文、柳原正昭
見どころ：楽しみ方いろいろ、入間川沿いの
散歩道。ススキの穂波を眺めながら、
川の流れるように、のんびり歩くのも
よし、目をららんと光らせて、カワ
セミやキジを探すのもよし。あなた流・
自然の楽しみ方、見つけて下さい。

蓮田市・黒沼沼探鳥会

期日：10月27日（日）
集合：午前8時45分 JR東北線蓮田駅東口
担当：中島康夫、浅田徳次、小林恒雄、五十
嵐浩、入山博
見どころ：秋の農村風景の中に、冬鳥を訪ね
る。農家の屋敷林に、たわわに実った
柿の枝に、秋草の繁る野に、ツグミや
シメ、カシラダカの姿がちらり、ほら
り。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月3日（土・祝）
集合：午前7時20分 丸山公園北駐車場
交通：JR高崎線上尾駅西口1番バス乗り場
から上尾車庫行き7：03発に乗車、終

点下車、徒歩10分

解散：午前9時ごろ

担当：中島康夫、赤瀬征雄、松井昭吾、立岩
恒久

見どころ：おなじみ、早朝探鳥会。朝の冷た
い空気を胸いっぱい吸いこんで、目を
さましたら、誰もいない公園の探検に
出発。渡ってきたばかりの冬鳥たちは
もちろん、思いがけない出会いもある
かもしれません。

富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月3日（土・祝）
集合：午前9時 東武東上線柳瀬川駅前
担当：藤原寛治、黒田佳子、杉本秀樹、石井
幸男、佐久間博文、高草木泰行
見どころ：あこがれの鳥は、タゲリという方、
けっこう多いようです。それもその
はず、どこでも簡単に見られる鳥では
ありません。でも、ここ柳瀬川には、
毎冬20～30羽ほどの群れが渡ってきま
す。一目でもタゲリさんに会いたい方
は、ぜひ、来て下さいね。

ガン・ハクチョウを訪ねて新潟へ（要予約）

期日：11月22日（金・夜）～24日（日）
交通：貸し切りバス利用
定員：35名（先着順、ただし県支部会員優先）
申し込み：往復葉書に住所、氏名、電話番号、
年齢、性別を明記の上、中島康夫（〒
まで
費用：約23,000円（宿泊費、交通費、お弁当
代、参加費、保険料等）
担当：中島康夫、楠見邦博、小林みどり
見どころ：ヒシクイやオオハクチョウ、コハ
クチョウが集う、新潟県内の湖沼－瓢
湖、福島潟、佐潟などを巡ります。荒
波の押し寄せる日本海の海岸では、海
鳥の観察も。初めての新潟ツアー、ふ
るってご応募下さい。

11月4日（日） 秋ヶ瀬探鳥会
吉見百穴探鳥会

行事報告

7月21日(日) 浦和市 三室地区

人 47人 天気 快晴 鳥 カイツブリ コサギ カルガモ コチドリ イソシギ シラコバト キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ コムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシボソガラス(26種) 暑い!暑い!とにかく7月の探鳥会はリーダー泣かせである。しかし、47名のたくさんの参加者が来たのでは、頑張るほかはないのです。カワセミがチラリと姿をみせてくれたが、昨年2月から1年半ぶりの出現でした。しかし、梅雨明けの三室の里は、ノカンゾウ等の花も咲いてカラリと青空でした。(楠見邦博)

7月27日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア 荒木恒夫、石井幸男、岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、遠藤薫、角田真喜子、墨江光子、外山雄大、馬場昇、藤野富代、渡辺喜八郎(12人)

7月27日(土) 写真クラブ定例会

参加者 16人 作品発表 3人



秋ヶ瀬 5月(渡邊光行・浦和市)

7月28日(日) ワイワイガヤガヤVTRを楽しむ会

場所 支部事務所 参加者 13人

暑い夏の一日、皆でビデオを観ようという集いです。数年前NHKで放映された、出水に渡ってきたツルの北帰行を記録した1本を全員熱心に観た。次は、本庄の町田さんが当日の朝に東京港野鳥公園で撮影してきたものと、数日前に阪東大橋と伊香保森林公園で写したものを皆でこころゆくまで楽しむことができました。当日のためにすばらしいビデオを用意してくれた町田さん、本当にありがとうございました。(中島康夫)

8月11日(日) 熊谷市 大麻生

人 28人 天気 曇 鳥 ダイサギ チュウサギ コサギ トビ キジ イソシギ コアジサシ キジバト ヒバリ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシボソガラス(20種) 今にも雨が降り出しそうな天気だ。何とか2カ月連続で雨天中止だけは避けたい。30人近い参加者の気持ちに通じて、終了までは何とか雨は避けられた。1年のうちで一番鳥の少ない季節だが、河原でさえずるホオジロ、水を飲みに出てきたキジがみんなを歓迎してくれた。護岸工事は終わってしまい、いまいちポイントがつかめない。今後どのように環境が変化していくか心配だ。(諏訪隆久)

8月18日(日) 浦和市 三室地区

人 42人 天気 曇時々晴 鳥 ゴイサギ コサギ カルガモ トビ サシバ イソシギ クサシギ キジバト カッコウ カワセミ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ シジュウ

ウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ コ
ムドリ ムドリ オナガ ハシボソガラ
ス ハシブトガラス(25種)夏休みの暑い探
鳥会でしたが、暑さの中に秋の便りが聞こえ
てくるようでした。秋はタカの渡りの季節で
すが、サンバが出現しました。サンバは林の
上から、探鳥会の行列の上に乗っすぐに飛ん
できて、明るい太陽にその羽根の模様をはっ
きり見せました。カワセミが前月に引き続い
て芝川の川面にブルーの線を引きました。サ
ンバとカワセミが参加者を非常に感激させた
1日でした。(楠見邦博)

8月24日(土) 蓮田市民まつり

ボランティア 海老原教子、海老原美夫、草
間和子、楠見邦博、楠見文子、小林恒雄、佐
久間博文、中島康夫、中島郁夫、福井恒人、
吉原俊雄(11人)。

2回目を迎えた市民まつりが、蓮田駅前広
場を中心に開催されました。当支部も昨年
に引き続き参加しました。テントの中で、写真
パネル展示と、バードウォッチンググッズの
販売を行い、多数の市民の方が訪れてくれ、
盛況でした。暑い中、朝早くから夜遅くまで、
手伝ってくださったボランティアの皆さん、
ありがとうございました。(中島康夫)



蓮田市民まつり

9月1日(日)第8回初級リーダー研修会

講師 市田則孝本部常務理事 **参加者** 研修
生=入山博、岡部泰三、小野光明、神沼幸三
郎、佐藤方博、嶋田和江、墨江光子、高草木
泰行、馬場昇、林真一、柳原正昭、役員リー
ダー=五十嵐浩、伊藤芳晴、海老原教子、海
老原美夫、榎本秀和、笠原伸子、草間和子、



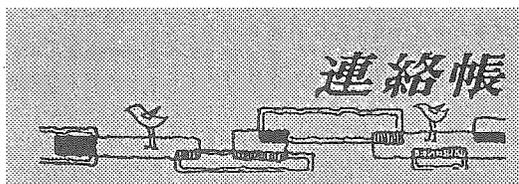
研修会

楠見邦博、楠見文子、小谷野勝栄、佐久間博
文、杉本秀樹、関口善孝、手塚正義、登坂久
雄、中島康夫、内藤義雄、中村治、長谷部謙
二、福井恒人、町田好一郎、三田長久、森本
國夫、山部直喜、吉原俊雄(30人)

日本野鳥の会で毎年研修を行っているのは
埼玉県支部だけですが、今年も内容をより充
実すると共に、研修会の原点に戻って行いま
した。普及部会で案を練り、役員会の意見を
聞くと共に、初めて本部事務局から築田普及
部員においでいただき、企画を作り上げまし
た。また、研修会を探鳥会形式の屋外研修会
と、講座方式の室内研修会とに分けて行い、
場所を変える等忙しいものでしたが好評でし
た。講師としてお迎えした市田さんの、経験
に基づいた生き生きしたお話は、研修生だけ
でなく役員リーダーたちにも感銘を与えまし
た。研修会終了後は、恒例により懇親会を行
い市田さんを囲んで楽しい語らいを持ちまし
た。新しいリーダーに期待すると共に、人間
の顔をした、やさしい、親切的な埼玉県支部
を会員全員で作りを誓って研修会を
終わりました。(楠見邦博)



(漆原正浩・小5)



バードウォッチングウィーク展

恒例秋のバードウォッチングウィーク展、今年も開催。1991ネイチャーフォトコンテスト入選作30点を一挙に展示します。年々レベルアップする会員の労作をご覧ください。

タイトル 『人も野鳥も地球の仲間』
期間 10月27日(日)～11月4日(休日)
場所 熊谷駅ビル「アズ熊谷」4階カプセルプラザ

後援 アイリスメガネ(株) アズ熊谷(株) ニコン

土曜・日曜は支部役員リーダーらが会場でご案内します。

10月27日(日)午前中と11月4日(休日)午後5時から、展示作業と撤去作業。お手伝いいただける方、お集まりください。

銀行ロビー展

バード信託キャンペーンのため、支部会員の写真パネル10点を展示します。

タイトル 『はばたく野鳥たち』
期間 9月24日(火)～10月9日(水)
場所 三菱信託銀行大宮支店(大宮駅西口、右側すぐ)

主催 三菱信託銀行大宮支店
協力 日本野鳥の会埼玉県支部

バードソン情報

11月3日(土・休日)午前5時～午後5時までの12時間、全国で熱戦が展開されるバードソン。残念ながら今年も埼玉県支部代表公式チームの名乗り出はありませんでしたが、埼玉県関連チームとしては、次のチームが参加申し込みをしています。

公式チーム リブランバードーズ(日比彰)
オープンチーム かもめのジョナサン(松本由) 宮寺充チーム

支部探鳥会規定の変更

第4項(1)(参加者)が、次のとおりに改正されました。(アンダーライン部分追加)

「探鳥会には、会員はもちろん、会員でない人も誰でも参加できます。ただし、小学生以下の参加は保護者同伴を原則とします。また、一泊以上の探鳥会及び役員会が指定する探鳥会については、中学生以下は保護者同伴、高校生は親の承諾を必要とします。」

(規定全文は事務局までお問い合わせください)

10月の土曜日当番(2時～6時)

- 5日 石川敏男 菱沼一充(普及部会議)
- 12日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 19日 岡安征也 箕輪左知子
- 26日 袋づめの会(1時から)

会員数は

9月2日現在 1,736人です

浩司の報告

8月17日 編集会議(8月号反省・9月号編集作業・10月号以降の企画・その他)。

8月18日 役員会議(司会:佐久間博文、各部の報告・関東ブロック会議出席者・自然環境保全基礎調査・支部探鳥会規定の変更・10～12月の探鳥会予定・その他)。



編集部に入ってから初めての仕事が、今月号の特集記事でした。必死にフィールドノートをめくり、観察記録を書き写したり、誤字の無いよう辞書を調べたりと四苦八苦……。

それでも何とか書き上げた記事を見ると、我ながら良くできたほうだなと、ホッと胸をなでおろしています。

とにかく、記事の出来の好し悪しは別として、鐘撞堂山はとても良い所です。ぜひ、お出かけになってみて下さい。(田口浩司)

『しらこぼと』1991年10月号(第89号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130
印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)